

1. 本校の研究主題

より良い生き方を求め、自他を大切にし、主体的に挑戦する生徒の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現を目指した多様な指導方法の工夫を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 本校の概要 生徒・保護者の実態

本校は四街道市の南に位置し、千葉市若葉区に隣接している。首都圏のベッドタウン化によって、宅地化が進み、一戸建て住宅やマンションの建設が進んでいるため、少子化の影響はあまりない。和良比小学校、四和小学校、中央小学校から入学する生徒が大半を占めている。

本校の生徒は、基本的な生活習慣が身についている生徒が多く、各種行事に積極的に参加できる。学習面では意欲的な生徒が多いが、学力が年々低下する傾向が見られる。保護者は教育に対する関心が高く、学校に協力的である。

道徳的価値に志向している生徒は少なくないが、よりよい生き方をその場では理解できていても、継続できなかつたり実践に結びつかなかつたりする生徒もいるのが現状である。

(2) 学校教育目標

高い知性と豊かな心を身につけ たくましく生きる生徒の育成
～校訓：自律・貢献～

(3) 目指す生徒像

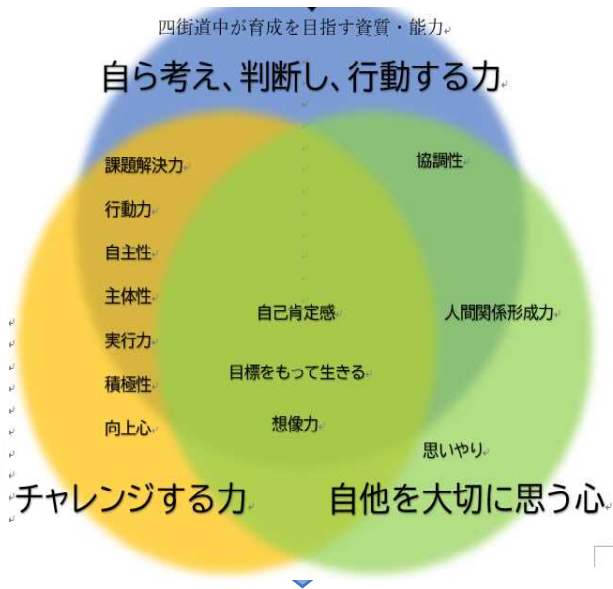
- よく考え、自ら学ぶ生徒
- 思いやりがあり、正しく判断できる生徒
- 明るく、健康な生徒

《四街道中が育成を目指す資質能力のイメージ》

【目指す生徒像イメージ】



【このような生徒が持つべき資質能力】



3. 研究主題に込めた思い

①「より良い生き方を求めて」とは…

○社会の変化の中…情報化やグローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている。

○人間の強みは…感性を豊かに働かせ、**どのような未来を創るか、どのように社会や人生をよりよいものにするか**、という**目的を自ら考え出す**ことができる。

自ら目的を設定し、その目的に応じて、必要な情報を見だし、深く理解して自分の考えをまとめ、答えのない課題に対して、多様な他者と協働しながら**目的に応じた納得解を見出す**ことができる。

○社会的の要請は…質的な豊かさが重視されていく中で「既存組織の在り方を前提としてどのように生きるか」だけでなく様々な情報や出来事を受け止め、**主体的に判断**しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、**より良い社会をどう思い描くかを考え、他者と共に生き、課題を解決していくための力の育成**が、社会的な要請となっている。

○研究主題にこめて…予測できない変化に受け身で対処するのではなく、**主体的に向き合っ**
関わり合い、その過程を通して自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自らの手で創造しようとする態度を、「より良い生き方を求めて」という言葉に込めた。

②「自他を大切にし」とは… 以下に示すような力や態度を身につけている状態をめざしたい。

○異なる考えや立場にある他者ととともに、同じ目標に向かって助け合い、譲り合って生きていく
協調性

○異なる考えや立場にある他者と良好な関係を築き上げる人間関係形成能力

○他人の気持ちを想像し、思いやる心、他者の良さを認める心

○自分自身の良さを認める自己肯定感

③「主体的に挑戦する」とは… 以下に示すような力や態度を身につけている状態をめざしたい。

○見出だした課題を自分で解決しようとする主体性や自主性、積極性

○考えるだけでなく、実際に課題解決に乗り出す行動力や実行力

○課題を解決する力

○現状に甘んじることなく、より良いものを求める向上心

4. 道徳科で目指す生徒像

(1) 自己をみつめ、向上心をもって目標の達成に向けて努力しようとする生徒

(2) 思いやりと感謝の気持ちを持ち、互いに認め合い共に成長しようとする生徒

(3) 伝統と文化を尊重し、社会の秩序と勤労を尊ぶ精神を養い、よりよい社会の実現に貢献しようとする生徒

(4) 自他の生命を尊重し、よりよく生きることを追求する生徒

5. 特別の教科 道徳の研究主題

自己の生き方について考えを深め、よりよく生きようとする生徒を育む指導のあり方

6. 研究仮説

【仮説1】

授業づくりの工夫をすれば、生徒が道徳的価値に関心を持ち、より深く自分事として捉えられるようになるだろう。

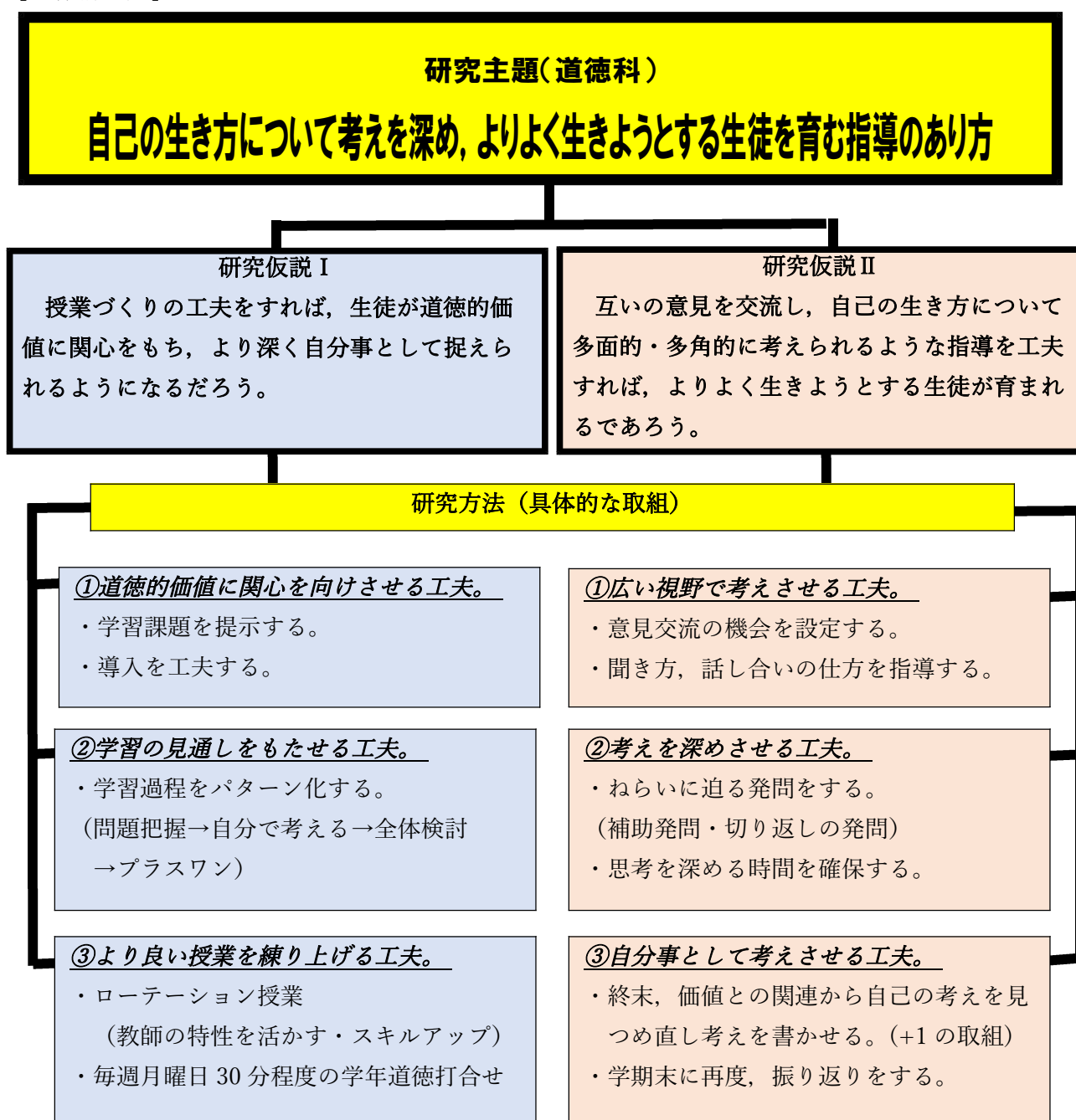
【仮説2】

互いの意見を交流し、自己の生き方について多面的・多角的に考えられるような指導を工夫すれば、よりよく生きようとする生徒が育まれるであろう。

7. 研究の内容

- (1) 授業の中で、生徒が意欲的に学びに向かえるような工夫をする。
- (2) 授業の中で、生徒同士が意見を交流させる中で、学びを深められるような工夫をする。

【全体構造図】



8. 具体的な取り組み

仮説1 「授業づくりの工夫」 具体的な取り組み1 道徳的価値に関心を向けさせる工夫

その授業で扱う道徳的価値に生徒の関心を向けさせるために ...

・導入の工夫

例:映像を見せる その場アンケート等

・学習課題 を授業の最初に示す(疑問文)

→ 議論が脱線しそうになった時の修正 終末時の振り返

「今日の授業のポイントは○○だから～」

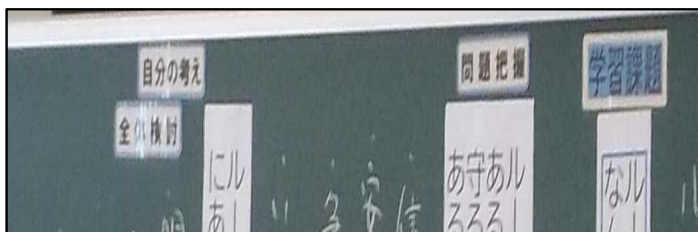
「今日は○○について考えてきたけれど～」

仮説1 「授業づくりの工夫」 具体的な取り組み2 学習の見通しをもたせる工夫

生徒に学習の見通しをもたせるために ...

《学習過程をパターン化》

- ・ **問題把握**(主題に迫る発問)
- ・ **自分の考え**
(中心発問に対する自分の考えをまとめる)
- ・ **全体検討**(小グループ→クラス)



★今までの自分にプラス1

(題材の感想ではなく、その授業を通しての新たな発見・考えたことを書く)

仮説1 「授業づくりの工夫」 具体的な取り組み3 よりよい授業を練り上げる工夫

・(学年内)ローテーション授業

《目的》・教師のスキルアップ(若手教師の育成)

教材研究を活かし、複数回授業をして進め方を改善

・教師の個性を活かす

例:子育て経験を活かす 社会科・理科の授業と絡めて スポーツに打ち込んできた経験

・生徒の見取り (担任がクラスの生徒の様子を観察)

・毎週月曜日 放課後 30分程度の学年道徳打ち合わせ

《目的》・教材研究を共有し、授業の進め方を確認(共通の指導)

・若手教師が自読もって授業できるように

仮説2 「指導の工夫」 具体的な取り組み1 広い視野で考えさせる工夫

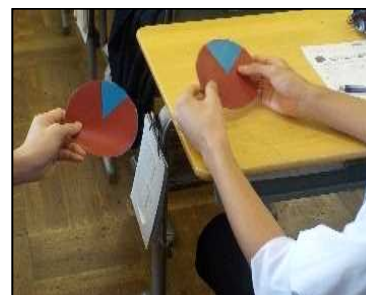
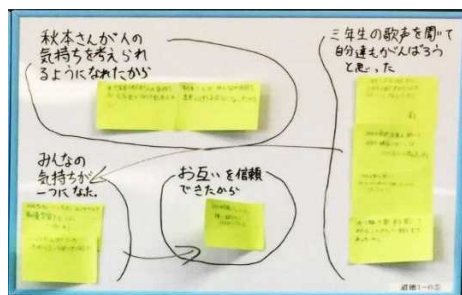
生徒の思考の幅を広げるために ...

★意見交換・話し合いの工夫

(マンネリ化しないように、題材に合わせて変える)

・思考ツール ネームプレート 付箋 ホワイトボード ICT機器

・話し合いの仕方 ブレーンストーミング KJ法 トリオトーク



仮説2「指導の工夫」具体的な取り組み2

考えを深めさせる工夫

- ・ねらいに迫る中心発問，補助発問を検討
 学年で教材研究する時間を確保
- ・生徒の発言への切り返し
 なぜそう思ったのか，理由を聞くと思考が深まる
- ・考え・議論する時間の確保 → 朝読書の時間に題材を読む
 ポイントを絞ったあらすじの確認から始められる

仮説2「指導の工夫」具体的な取り組み3

自分事^{じぶんごと}として考えさせる工夫

- ・終末に「**プラス1**」
 (題材の感想ではなく，その授業を通しての新たな発見・考えたことを書く)
- ・学期末に振り返り → 評価^{ひょうか}活用
 (学期内で学習した題材のワークシートと教科書を読み直す時間をとる。印象に残った題材とその題材に関して改めて考えたことを記述させ，学習した道徳的価値について再度振り返り，実践力につなげる)

9. 成果と課題

(1) 成果

《仮説1》

- ・学習課題の提示や，学習過程ラベルの掲示などを共通実践することで，授業者に関わらず道徳の授業の時間には全学級において，迫りたい価値について考えさせることができた。
- ・「道徳科打合せ」「ローテーション授業」の実践により，学級担任だけでなく全職員で道徳の授業を充実させようとする意識を高め，体制を整えることができた。

《仮説2》

- ・事前に教材を読むことで，思考を深め，議論する時間の確保につながった。
- ・終末時に，「プラス1」の時間を設け，自分事として考えさせることで，価値について考えを深め，より良く生きようとする態度を育むことができた。

(2) 課題

《仮説1》

- ・授業改善に重点を置いたが，何のための授業改善かという点について，全職員で共通理解を図れなかった。道徳科の授業を通して生徒にどのような力をつけさせたいかを明確にしていきたい。

《仮説2》

- ・用いる思考ツールを充実させ，より適した思考ツールが活用できるようにしたい。
- ・生徒の反応，発言について事前に十分に予想し，より深く考えさせるための「問い返しの発問」を充実させ，授業力を向上していきたい。

令和3年度 印旛地区教育研究集会

2021. 8. 18(水)
道徳研究部提案資料

自己の生き方について考えを深め、
よりよく生きようとする生徒を育む指導のあり方

四街道市立四街道中学校
小野 則子

令和3年度 印旛地区教育研究集会

2021. 8. 18(水)
道徳研究部提案資料

自己の生き方について考えを深め、
よりよく生きようとする生徒を育む指導のあり方

四街道市立四街道中学校
小野 則子

学校の概要 生徒・保護者の実態



学校教育目標

高い知性と豊かな心を身につけ
たくましく生きる生徒の育成
～校訓: 自律・貢献～

目指す生徒像

- よく考え、自ら学ぶ生徒
- 思いやりがあり、
正しく判断できる生徒
- 明るく、健康な生徒

研究主題

より良い生き方を求め、自他を大切にし、
主体的に挑戦する生徒の育成
～主体的・対話的で深い学びの実現を
目指した多様な指導方法の工夫を通して～

道徳科で目指す生徒像

1. 自己をみつめ、向上心をもって目標の達成に向けて努力しようとする生徒
2. 思いやりと感謝の気持ちを持ち、互いに認め合い共に成長しようとする生徒
3. 伝統と文化を尊重し、社会の秩序と勤労を尊ぶ精神を養い、よりよい社会の実現に貢献しようとする生徒
4. 自他の生命を尊重し、よりよく生きることを追求する生徒

特別の教科 道徳の研究主題

自己の生き方について考えを深め、
よりよく生きようとする生徒を育む
指導のあり方

7

研究仮説

研究仮説1

授業づくりの工夫をすれば、生徒が道徳的価値に関心をもち、より深く自分事として捉えられるようになるだろう。

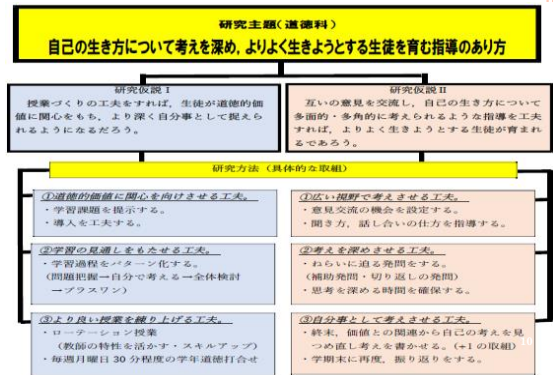
研究仮説2

互いの意見を交流し、自己の生き方について多面的・多角的に考えられるような指導を工夫すれば、よりよく生きようとする生徒が育まれるであろう。

研究の内容

1. 授業の中で、生徒が意欲的に学びに向かえるような工夫をする。
2. 授業の中で、生徒同士が意見を交流させる中で、学びを深められるような工夫をする。

9



仮説1「授業づくりの工夫」具体的な取り組み1

道徳的価値に関心を向けさせる工夫

その授業で扱う道徳的価値に生徒の関心を向けさせるために...

・導入の工夫

例:映像を見せる その場アンケート等

・学習課題を授業の最初に示す(疑問文)

→議論が脱線しそうになった時の修正、終末時の振り返り

「今日の授業のポイントは〇〇だから～」

「今日は〇〇について考えてきたけれど～」

11

仮説1「授業づくりの工夫」具体的な取り組み2

学習の見通しをもたせる工夫

生徒に学習の見通しをもたせるために...

《学習過程をパターン化》

・問題把握(主題に迫る発問)

・自分の考え

(中心発問に対する自分の考えをまとめる)

・全体検討(小グループ→クラス)

★今までの自分にプラス1

(題材の感想ではなく、その授業を通しての新たな発見・考えたことを書く)



仮説1 「授業づくりの工夫」 具体的な取り組み3

よりよい授業を練り上げる工夫

・(学年内)ローテーション授業

《目的》教師のスキルアップ(若手教師の育成)

教材研究を活かし、複数回授業をして進め方を改善

・教師の個性を活かす

例:子育て経験を活かす 社会科・理科の授業と絡めて
スポーツに打ち込んできた経験

・生徒の見取り (担任がクラスの生徒の様子を観察)

・毎週月曜日 放課後30分程度の学年道徳打ち合わせ

《目的》教材研究を共有し、授業の進め方を確認(共通の指導)

・若手教師が自信をもって授業をできるように

ローテーション授業の例

道徳授業 ローテーション 11月~12月							
	1	2	3	4	5	6	
11月20日	火	中村 t	藤川 t	羽石 t (高田)	高重 t (李子 t)	巖 t	小野
		卒業文集最後の二行 (公平・公正・社会正義)	卒業文集最後の二行 (公平・公正・社会正義)	死刑制度を考える (憲法の精神)	死刑も人も愛した言葉 (自然との共生)	もう一つの時間 (自然と自己との関係)	ひび割れ傘 (個性の伸長)
12月3日	水	中村 t	藤川+高田 t	高田 t	李子 t	羽石 t (巖 t)	小野
		ひび割れ傘 (個性の伸長)	死刑も人も愛した言葉 (自然との共生)	足袋の手紙 (思いやり)	卒業文集最後の二行 (公平・公正・社会正義)	死刑制度を考える (憲法の精神)	足袋の手紙 (思いやり)
12月30日	火	中村 t	藤川 t	高重 t (高田 t)	李子 t	小野	巖 t
		足袋の手紙 (思いやり)	足袋の手紙 (思いやり)	死刑も人も愛した言葉 (自然との共生)	足袋の手紙 (思いやり)	足袋の手紙 (思いやり)	もう一つの時間 (自然と自己との関係)
12月17日	火	中村 t	藤川 t	高田 t	李子 t	巖 t	小野
		2学期の振り返り	2学期の振り返り	2学期の振り返り	2学期の振り返り	2学期の振り返り	2学期の振り返り

仮説2 「指導の工夫」 具体的な取り組み1

広い視野で考えさせる工夫

生徒の思考の幅を広げるために...

★意見交換・話し合いの工夫

(マンネリ化しないように、題材に合わせて変える)

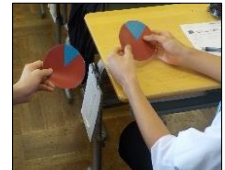
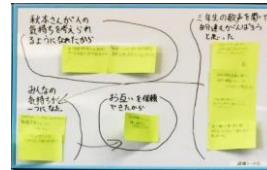
・思考ツール

ネームプレート 付箋 ホワイトボード
ICT機器

・話し合いの仕方

ブレインストーミング KJ法 トリオトーク

思考ツールの例



↑個人の考えを付箋に書いた後、4人グループで付箋をホワイトボードに貼り、多様な考えを共有する。

↑死刑制度の賛否について、思考ツールを用いて議論している。

仮説2 「指導の工夫」 具体的な取り組み2

考えを深めさせる工夫

・ねらいに迫る中心発問、補助発問を検討

学年で教材研究する時間を確保

・生徒の発言への切り返し

なぜそう思ったのか、理由を聞くと思考が深まる

・考え・議論する時間の確保

→朝読書で題材を読む

ポイントを絞ったあらすじの確認から始められる

仮説2 「指導の工夫」 具体的な取り組み3

自分事として考えさせる工夫

・終末に「プラス1」

(題材の感想ではなく、その授業を通しての新たな発見・考えたことを書く)

・学期末に振り返り→評価に活用

(学期内に学習した題材のワークシートと教科書を読み直して印象に残った教材と改めて考えたことを記述し、再度の振り返りで実践力につなげる)

「プラス1」提示例(中2「まだ食べられるのに」)

- ・「食品ロス」について今までどう思っていたか。これからどのようなことを意識しようと思うか。
- ・なぜ「持続可能な社会」を考える必要があるのか。

本時の学習課題を意識させたり、今までの自分の比較したり、これからどうしたいかを考えられるように、振り返りの視点を与える

「プラス1」生徒の記述 (中2「まだ食べられるのに」)

- ・「別に少し残したくらいじゃどうにもならないだろう」と思っていたけれど、一つのものを作るのにたくさんの人々が関わっていることをわかった上で、どうすればロスを減らせるかを考えていきたい。
- ・これまで自分たちの先祖が開発などをしていてくれたおかげで、とても便利な世の中になったけれど、それと共に、かなり最悪な環境を残してきたので、私たちは環境を良くして、良い未来を作っていきたい。

学級通信に掲載して家庭に知らせる

第〇回
道徳の積み
重ねを意識

ワークシートの例

2月15日

26 家族の思いと意思表示カード

学習課題 「食生活に関する」とは、どういふことだろうか。

1. 問いは書かない

2. 学習課題

3. 「今までの自分「プラス1」」 今日学習した内容についての感想や、考えが変わったのあったりしたことなど、自由にプラス1を記入しよう。

プラス1

その時間の振り返り

氏名	A	B	C	D
自分の学習態度について、改めて振り返るために書く。				
自分に影響を与えたいと思う人への感想。				
授業の考えや感じがいから、新しい気づきや発見があったら。				
自分の生活の中で「食生活」に関することについて考えたこと。				

21

学期の振り返りの
ワークシート

道徳の学びを記録しよう～2学期～

道徳の学習では様々な事例についてみんなで考え、話し合い、議論してきました。どのような事例が印象に残っていますか。そこからあなた自身の考え、何を学ばされたか、授業に何を感じたかなどを振り返り書いてください。学年末に振り返りましょう。

学年・学期	学習した事例名	学んだこと	
1.3	アットホーム	1.3	みんなで作る心の色
1.4	ピコピコ	2.0	家族や地域のつながり
1.5	家族の時間を考える	2.1	学びの意
1.6	校長の生活哲学	2.2	道徳の学習
1.7	自分も人なりの生活哲学	2.3	もう一つの時間(と、季節の色)
1.8	校長先生の感謝状		

学んだこと・学んだこと

道徳の学習について考えた、自分の意見も書いた。

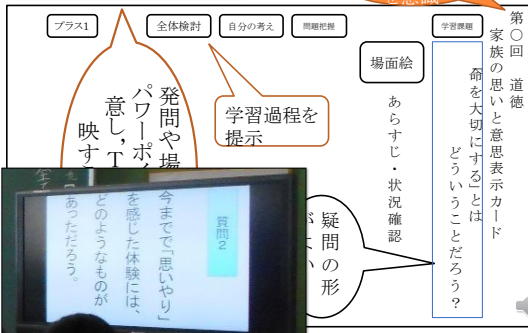
氏名	A	B	C	D
問い(や「プラス1」)について振り返る、ワークシートに書く。				
自分の考えやグループ学習で積極的に参加した。				
振り返りを書いたり、人と自分の意見を出したりして考えたこと。				

学年末の通知票・要録の評価に利用

22

板書のイメージ

第〇回道徳
の積み重ね
を意識



授業の実際

中学3年
「家族の思いと意思表示カード」

24

母の考え

あらすじ・ポイントの確認

- ・大切な娘にメスを入れるなんて考えられない。
- ・奇跡が起きて意識が戻るかもしれない。

31

質問1

基本発問
(中心発問につなげる)

あなたは自分の臓器を
提供する意思を
示しますか？

32

質問2

基本発問
(中心発問につなげる)

あなたは
家族の臓器提供の意思に
賛同しますか？

33

質問3

問題提起

二つの意思の違いは
何だろう？

中心発問

自分の考え



全体検討

34

質問4

価値に迫る発問
・学習課題を考える

「命を大切にする」とは、
どうということだろう？

35

今までの自分にプラス1

今日学習した内容についての感想や、考えが変わったり深まったりしたことなど、自分にプラスになったことを書こう。

学習を振り返り、自分事として書く

36

学級通信で紹介したプラス1

- 大切な人だったら、迷うと思った。命に関わる決断をすることは、こんなにも辛く、悲しいことなんだと思った。
- 自分だと人の役に立ちたいと思うから使ってほしいと思う。命は重要だし、大切にしていきたいと思った。体だけでなく、心も大切にすべきだと思った。
- 自分の立場だと提供しづらいが、自分の子どもがドナーを探している立場だったら、今すぐにも提供してほしいと思うだろう。こんな考え方をしたことがなかった。

38

- 「もしかしたら命が戻るかもしれない」と思ってしまふところも、悩ましさを大きくしていると思った。他人に軽率に言うてしまう言葉の中にも危ないものがあると思った。
- 今生きていることに感謝。病気などで死んでしまった人たちの分も生きたいと思った。
- 見えないものを大切にしていく。生きていくことに責任ではなくて「ありがとう」と思うべき。
- 命を落としてしまったら、この先の人生はもう無いわけだから、命を落とす前に自分がどんな人生をおくるかを考えるべき。

38

- 親から子への「つなぐ」。体の一部を分け与える「つなぐ」。死んだ人から家族や友人への「つなぐ」。「命を大切にすると、肉体的なものや精神的なもの、様々な命を色々な方法でつなぐことだと思ふ。決して無くならないよう、人から人へとつなぐことが大切にすることだと思ふ。

39

成 果

《仮説1》

- ・学習課題の提示や、学習過程ラベルの掲示などを共通実践することで、授業者に関わらず道徳の授業の時間には全学級において、迫りたい価値について考えさせることができた。
- ・「道徳科打合せ」「ローテーション授業」の実践により、学級担任だけでなく全職員で道徳の授業を充実させようとする意識を高め、体制を整えることができた。

《仮説2》

- ・事前に教材を読むことで、思考を深め、議論する時間の確保につながった。
- ・終末時に、「プラス1」の時間を設け、自分事として考えさせることで、価値について考えを深め、より良く生きようとする態度を育むことができた。

40

課 題

《仮説1》

- ・授業改善に重点を置いたが、何のための授業改善かという点について、全職員で共通理解を図れなかった。道徳科の授業を通して生徒にどのような力をつけさせたいかを明確にしていきたい。

《仮説2》

- ・用いる思考ツールを充実させ、より適した思考ツールが活用できるようにしたい。
- ・生徒の反応、発言について事前に十分に予想し、より深く考えさせるための「問い返しの発問」を充実させ、授業力を向上していきたい。

41

ご清聴 ありがとう

ございました

42